

早稲田大学 教育学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	出題形式・分量とも去年と同じ。記述式は全問が基本的な内容。正誤判定のポイントはやや難化した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	英市民革命と産業革命	(1)の選択肢は全て革命の原因だが、問題文の「最も直接的」を「直前の」と読み替えればdの長期議会を選べる。(4)は権利の章典の内容ではなく、議会の同意が必要な事項である。平時における常備軍の徴募(維持)は禁止されているから、それを行うためには議会の同意が必要なのである。産業革命関係は易しかった。	一部難
2	古代ギリシア	(6)のdの将軍は抽選が原則のアテネで選挙で選ばれていた唯一のポストである。(7)の語群にある『アガムメノン』は文化構想学部でも出ていた。(10)の「無知の知」はソクラテス。	標準
3	中国文化	(1)のdの『南華真経』は『荘子』の別称。唐の玄宗皇帝が荘子に「南華真人」の称号を与えたことに由来する。受験勉強の範囲ではないが、ここは消去法でなんとかなる。(5)の文人画・院体画は混同しやすい。王維は唐末ではなく盛唐の人。唐代の文化人は唐初・盛唐・中唐の区分に敏感でありたい。(7)の郎世寧はカステリオーネの漢名。(10)の段玉裁は難しい。	一部難
4	オスマン帝国	全て教科書レベルで確実な得点が期待できる。(5)は一見難しそうだが。ミハイル＝ロマノフの即位年とはロマノフ朝の成立年なので1613年とわかる。第2回ウィーン包囲は1683年。	易

[総合コメント]

英市民革命と中国文化に難問が集中している。ほかは標準的内容なので、まずは標準的問題でしっかり得点をかせぎたい。権利の章典などは問題文がやや不明瞭なので、権利の章典で禁止している内容と、国王が議会の承諾を得る必要のあることを区別しないと、いくら悩んでも答えは出ない。おかしいと思ったら、問題文の構造を少々疑うことも必要である。この点、現代文で鍛えられている受験生はお手の物だろう。中国文化は時代が下るにつれ扱いにくくなる。古いところはもともと日本人にとってもなじみの深い人物が多いが、元・明・清となると親近感がなくなってしまうのである。元代の四大家をねらった問などは急所をついたといえる。ただ、正誤判定は消去法がきくからある程度はかわせる。早大の他学部対策と共通することだが、文化史は来年も出題が予想されるので、徹底的に対策を練って、とことん追い込んだ学習をして準備に万全を期したい。また、去年は大門1題がイラン史だったが、今年はおスマン帝国史になった。この傾向が続くとみると西アジア史も要注意である。